の計測結果の一例を同図に示したが，応力は主として船底外板に流れていることがわかる。

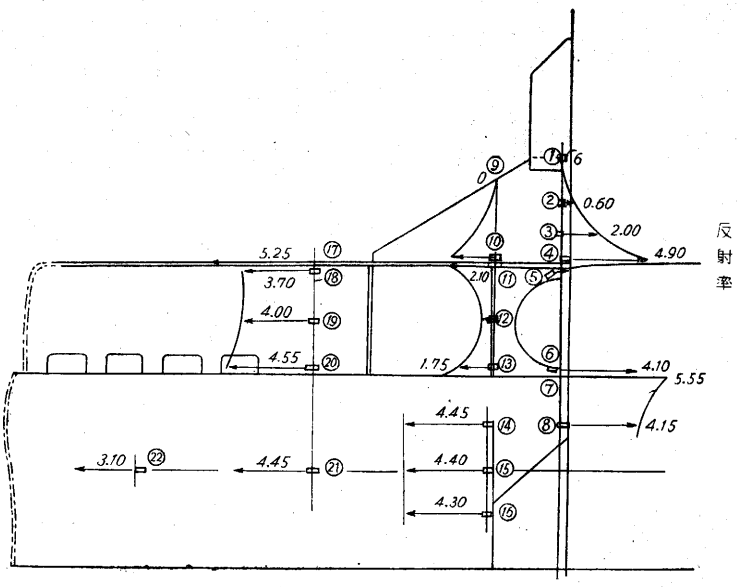
5. 結　　語

進水という現象を一つの曲げ試験機と考えて船体応力分布を計測できることを紹介した。このようなやり方は日本が世界各国にさきがけて行つたもので，これによつて実船の応力分布を比較的簡単に測ることができ，造船学における諸問題の解決に役立つことと思う。

計測結果の結論は造船研究協会の委員会において出されることであろうから，本誌では概説のみに止める。

なお航行中の応力分布，外力等の計測についても目下準備を進めている。

(1953. 2. 25)



第5図　"Alliance" 進水時応力測定結果
(1952. 11. 19 午前9時川崎重工において)
応力分布図 (at max stress)

参考文献

(1) 造船協会々誌第296号
(2) 生産研究4巻6号

次号予告 (5月号)

研究解説

ポーラログラフ測定における溶存酸素の除去……菊地 真一，本多 健一
尿素附加物による脂肪酸の分離……浅原 照三
電子管式アナログ・コンピュータ……野村 民也
二種の新耐寒性可塑剤の製造研究……石井 義郎

研究速報

不凍液としてのレブリン酸ソーダの性能……岡 宗次郎，武藤 義一
コーンワイングの高速化……荒井 宏
有機溶媒中の遊離硫黄のポーラログラム……早瀬忠次郎
ニュース，部外活動，その他

正誤表

第5巻 第2号 (1953年2月号)

頁	段	行	種別	正	誤
20	左		第1図	Al_2O_3 10%	Al_2O_3 15%
第5巻 第3号 (同，3月号)					
8	右	8	次号予告	温度修正	温度習性
9	左	下6	本文	試作	誠作
〃	〃	下8	〃	矩形波	短形波
10	右	下3	註	距離	路雑
11	左	下4	本文	挿入すれば	挿入するば
13	〃		第9図	右上電圧計のアースをやめて E 点をアースする	
13	右		第10図(説明)	整流器の電圧—電流特性	電源器の電圧—電流振性

福田，河添，趙 (8頁より続く)

吸着法によつて得られた粉体の表面積値は凹み，細孔，裂け目等の内部表面積を含むと考えられ，一般に他の方法によるより大きい値を示す。B.E.T. 法が他の追随を許さない点はこゝにあるのであつて，触媒の研究やその他の内部表面に関する研究には必要欠くべからざる手段となつている。(1953. 3. 11)

文　　献

(1) H. E. Schweyer: Ind. Eng. Chem. anal. ed., **14**, 622 (1942)
(2) L. A. Wagner: Proc. Am. Soc. Testing Material, **33**, II, 553 (1933)
(3) H. E. Schweyer: Ind. Eng. Chem. anal. ed., **9**, 211 (1937)
(4) P. C. Carman: J. Soc. Chem. Ind., 225 T (1938)
(5) P. C. Carman and P. le R. Malherbe: J. Soc. Chem. Ind. **69**, 134 (1950)
P. C. Carman et al: J. App. Chem., 1, 105 (1951)
(6) 福田，河添，趙: 第2回土・粉体・粒体・連合講演会 (1952—2)
(7) 河添，趙: 第3回 同上 (1952—12)
(8) 福田，河添，趙: 日本化学会 第6年会(1953—4)
(9) Brunauer, Emmett and Teller: J. Am. Chem. Soc., **60**, 309 (1938)